

## 《課題名》 動脈硬化の病態解明における動脈周囲脂肪と皮下脂肪での遺伝子発現の解析

《研究対象者》 承認日より 2023 年 9 月までに本学において法医学解剖が行われたご遺体

### 研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している臨床情報（及び生体試料）を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただかずに、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（試料・情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

### （1）研究の概要について

研究課題名：動脈硬化の病態解明における動脈周囲脂肪と皮下脂肪での遺伝子発現の解析

研究期間： 承認日（2019年1月7日）～2023年10月30日

研究機関・実施責任者： 滋賀医科大学 化学・分子生物学講座 分子病態生化学・扇田久和

### （2）研究の意義、目的について

#### 《研究の意義、目的》

動脈硬化の病態解明において、血管や血管内に存在する血球細胞に加えて、血管の外側にある血管周囲脂肪組織が注目されている。そこで、現在、本学外科学講座（心臓血管外科：鈴木友彰准教授）が中心となり、手術の際に摘出された動脈硬化病態試料（皮下脂肪、大動脈・冠動脈周囲脂肪）を用いた遺伝子発現解析を行い、血管周囲脂肪組織の炎症病態の程度を調べている。しかし、動脈硬化病態試料の比較対象となる非動脈硬化試料を健常者から得ることは不可能である。そこで、本研究は、本学社会医学講座（法医学）の協力のもと、法医学解剖の余剰試料として心臓血管疾患を持たない遺体より単離された皮下脂肪、大動脈・冠動脈周囲脂肪を用いた遺伝子発現解析を行う。本研究によって、動脈硬化状態でない皮下・血管周囲脂肪組織における遺伝子発現に関する知見が蓄積されることで、上述の動脈硬化病態組織での遺伝子発現との比較を十分に行うことが可能となる。そうすることで、動脈硬化病態進展の分子機構の理解が進むものと考えられる。

### （3）研究の方法について

#### 《研究の方法》

##### ・研究の内容

日常の法医学解剖・鑑定業務の際にルーチンに採取・保存される資料の一部（検査後に破棄する予定のもの）から、皮下脂肪・大動脈周囲脂肪・冠動脈周囲脂肪を採取し、分子生物学的手法を用いて RNA を抽出する。この RNA と逆転写酵素を反応させて cDNA を合成する。この cDNA を鋳型として定量的 PCR を行うことで、動脈硬化で高発現が観察されている各種炎症性サイトカイン（IL-6、IL-1 $\beta$ 、TNF- $\alpha$  など）の発現を解析し、外科的手術より単離された動脈硬化病態組織での遺伝子発現との比較検討を行う。

##### ・利用する試料や情報等の項目

法医学解剖の余剰試料である皮下脂肪、大動脈・冠動脈周囲脂肪組織とこれら試料を採取した検体の性別、年齢、既往歴、剖検所見に関する情報

#### **(4) 個人情報の取扱いについて**

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

#### **(5) 研究成果の公表について**

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

#### **(6) 研究計画書等の入手又は閲覧**

本研究の対象となる方の代理人は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

#### **(7) 利用又は提供の停止**

研究対象者の代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用（又は他の研究への提供を）停止することができます。停止を求められる場合には、（西暦 2023 年 9 月 30 日までに）下記（8）にご連絡ください。

#### **(8) 問い合わせ等の連絡先**

滋賀医科大学 分子病態生化学 扇田久和

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2162

メールアドレス：hogita@belle.shiga-med.ac.jp